

令和7年

2月

会津農林かわら版

第44号

令和6年度豊かなむらづくり顕彰事業受賞

令和6年度「豊かなむらづくり顕彰事業」の表彰式が、令和7年1月21日に福島市の杉妻会館で行われ、「むらづくり部門」で萱本そば会が、「農業生産部門」で農事組合法人会津ひらつか農園が表彰されました。地域の集落営農のモデルとして、今後のさらなる発展が期待されます。当所としても、引き続き支援を行ってまいります。

むらづくり部門 かやもと 萱本そば会

西会津町萱本集落では、そばの栽培が盛んで、地域にとって欠かせない作物となっています。

「萱本そば会（8名）」は、そばの特産化を通じた地域活性化に取り組んでおり、集落と連携してそばの栽培を行い、遊休農地の解消にも貢献しています。さらに、西会津ふるさとまつりや日本橋ふくしま館MIDETTE、コラッセふくしまをはじめとした、県内外の商業施設で販促活動にも力を入れています。また、記念植樹や盆踊り、里山散策などの交流イベントを通じて、地域に来訪者を招く活動も行っています。

斎藤会長は「今秋、そばを通じて知り合った映画監督を招待する予定です。そばを通じて地域を盛り上げていきたい。」と語り、都内在住で西会津応援大使を務める安藤さんは「西会津が大好きで、そば会を手伝っています。もっと西会津の魅力をPRしたい。」と、表彰への感謝とともに新たな企画への意欲を語りました。

(喜多方農業普及所)



▲左から斎藤会長（左端）、安藤氏（右端）

農業生産部門 農事組合法人会津ひらつか農園

会津若松市高野町の平塚集落では、担い手不足や農機具の更新といった課題解決に向け、平成23年に平塚農業生産組合を設立。その後、平成27年には集落内の農家8名が協力し、農事組合法人会津ひらつか農園を設立しました。

平成30年にはミニライスセンターを整備し、農地中間管理機構を通じて農地の集積を進め、令和5年度の経営面積は約56haに拡大しました。

さらに、高密度播種技術の導入や施肥・防除に農業用ドローンを活用するなど、低コスト化と省力化を積極的に進め、地域の担い手育成にも力を注いでいます。これらの取り組みが集落や地域の活性化に大いに貢献していることが高く評価され、今回の表彰となりました。

(農業振興普及部)



▲受賞された会津ひらつか農園の皆さん

大雪により農林業に被害が発生しました

令和7年2月4日以降の大雪により、被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。県では、被災された方々が一日も早く元の生活を取り戻されるよう、最大限の支援を行ってまいります。

会津管内の主な被害（令和7年2月28日現在）

※調査は継続中。

パイプハウス（イチゴ、宿根カスミソウ、水稻育苗用等）	947棟
農業用施設（倉庫、作業場等）	21棟
果樹棚（ブドウ等）	9件
果樹の樹体被害（リンゴ、ブドウ、モモ等）	8件
家畜被害	1件



▲会津若松市北会津町（イチゴハウス）



▲喜多方市熊倉町（園芸用ハウス）



▲会津若松市北会津町（果樹棚）



▲昭和村（園芸用ハウス）

目次

- P1 令和6年度豊かなむらづくり顕彰事業受賞
- P2 大雪により農林業に被害が発生しました
- P3 あいづ”まると”ネット第2回交流会を開催しました
有機農業について約130名が学びました
- P4 あなたの集落に適した鳥獣被害防止対策を取り入れよう！
会津地方花き生産振興セミナーを開催しました
- P5 林業労働安全研修会を開催しました
研修会でGAPチャレンジを応援！
- P6 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました
砂利採取監視員・物江浩二氏に知事感謝状を贈呈しました
- P7 令和6年度会津地方指導農業者会総会・全体研修会が開催されました
林業研究グループ及び林業普及指導員の研修会を開催しました

- P8 会津産「福、笑い」が食味コンテストで高く評価されました！
JA会津よつばの菅家博昭氏が農林水産大臣賞を受賞しました
- P9 農林水産祭天皇杯受賞者の拜謁・業績ご覧
柳津町湯八木沢の水路トンネル補修工事が完了しました
- P10 NPO法人会津自然塾が最優秀賞を受賞しました！

会津農林事務所からのお知らせ

- P10 福島県農林水産部公式YouTubeチャンネル「1400のネタばらし」配信中
会津農林事務所SNS、あいづ”まると”ネットSNS更新中
- P11 山菜を出荷する際は、御注意願います！

特集

- P12 地域おこし協力隊インタビュー
猪苗代町の魅力を世界へ！

あいづ”まるごと”ネット第2回交流会を開催しました

令和6年11月6日、11月20日、12月13日の3日間にわたり、道の駅あいづ湯川・会津坂下において「あいづ”まるごと”ネット第2回交流会」を開催しました。

この交流会は、あいづ”まるごと”ネット（事務局：会津農林事務所、南会津農林事務所）の主催で、「ふくしま6次化創業塾」の卒業生や、会津・南会津地域に移住された方々、ふくしま農山漁村発イノベーションサポートセンターのサポートを受けた方で、すでに6次化に取り組んでいる方などを対象に8名が参加しました。



▲自分の強みや連携を踏まえた
アイデア出しを行いました

○Day1：参加者交流セッション（LT）

参加者が自分の強みや取り組みたいことなどを発表し、交流を深めました。

○Day2：優良事例紹介・参加者交流セッション（グループワーク・アイデア集約）

株式会社つなぐネットワーク代表取締役の牛島晃氏による「6次化のキーワードと取組事例」についての講演後、地域おこしイベントを考えるグループワークを行いました。

○Day3：優良事例紹介・参加者交流セッション（成果共有・相互レビュー）

bird代表の星崎歩美氏から「情報発信の他社事例」に関する講演が行われた後、「連携と地域づくりを踏まえた6次化商品づくり」のアイデア出しが行われ、参加者がプレゼンテーションをしました。最後は、多様な主体どおしが連携した事例や生成AIを活用した参考回答などを紹介しました。



▲商品づくりのアイデアをプレゼンする参加者

グループワークやプレゼンテーションでは、総合アドバイザーである特定非営利活動法人 素材広場 理事長の横田純子氏をはじめ、講師の方々から貴重なアドバイスをいただきました。

今後も交流会の開催などを通じて、新たな6次化を創出し、枠組みを超えた多様な主体の連携・融合に向けた支援を続けてまいります。

（企画部）

有機農業について約130名が学びました

令和6年11月19日、会津・南会津地方における有機農業の拡大を目的に、「会津・南会津地方有機農業推進セミナー」を開催しました。

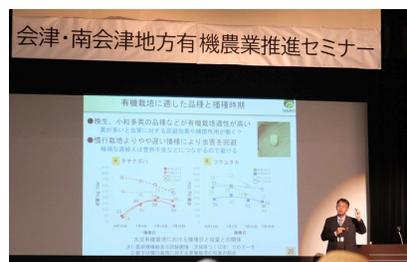
セミナーでは、一般社団法人日本有機農業普及協会の小祝政明氏が「BLOF理論で土づくりを科学する」をテーマに、土づくりにおけるアミノ酸やミネラルなどの重要性について解説しました。また、農研機構みどり戦略・スマート農業推進室の三浦重典氏が「有機栽培技術と研究最前線」をテーマに、有機栽培の基本的な技術を具体的な研究データを交えて紹介しました。

セミナーには有機生産者だけでなく、慣行栽培の生産者も多く参加し、それぞれの立場から有機農業について学びました。

（農業振興普及部）



▼BLOF理論について講演する
小祝政明氏



▼研究成果を紹介する
三浦重典氏

あなたの集落に適した鳥獣被害防止対策を取り入れよう！



▲講演の様子



▲防護柵の展示の様子

集落ぐるみで進められている鳥獣被害防止対策として、電気柵の設置などが行われていますが、近年、管理が不十分となり侵入を許すケースや、ニホンジカなど新たな獣種による被害が発生するなど、新たな問題が生じています。これに対処するため、集落のリーダーを対象に、令和6年11月25日に会津美里町じげんホールにおいて「会津地方鳥獣被害防止対策研修会（集落ぐるみ対策強化編）」を開催しました。

研修会では、「電気柵は張って終わりじゃない！」をテーマに、適切な管理が行われないと電圧が低下し、イノシシやツキノワグマが電線を警戒しなくなる事例を紹介しました。さらに、特定非営利活動法人おーでらすの今野代表が、地形や人手、獣種などの様々な条件に応じた防護柵の選定ポイントについて解説しました。

また、防護柵強化ポイント実習では、冬期間の撤収が不要な恒久柵や、ニホンジカの追加防除に効果的なワイヤーメッシュと電気柵を組み合わせた複合柵など、全8種類の防護柵を展示し、参加者に実際に見ていただきました。

ぜひ、みなさまの集落に適した対策や管理方法を取り入れ、集落ぐるみの対策をさらに強化していきましょう。
（農業振興普及部）

会津地方花き生産振興セミナーを開催しました



▲講演を熱心に聞く生産者

令和6年11月28日、会津若松市のピカリンホールにおいて「会津地方花き生産振興セミナー」を開催し、生産者や関係機関の77名が参加しました。

会津地方の花き（トルコギキョウや宿根カスミソウなど）は、栽培開始から30年以上が経過し、連作による土壌病害や生理障害などが原因で品質の低下が課題となっています。

セミナーでは、当所職員が土壌分析による施肥改善の結果、ストックやヒマワリの生育が向上した事例を報告しました。さらに、株式会社サカタのタネの高木篤史氏が「花き栽培において取り組むべき土づくりについて」をテーマに講演しました。高木氏は、連作障害や土壌改良について詳しく説明し、事前に用意された27の質問に対して丁寧に解説を行いました。
（農業振興普及部）



▲講演中の高木篤史氏

林業労働安全研修会を開催しました

林業労働災害の未然防止を目的として、令和6年12月2日に「林業労働安全研修会」を開催しました。

研修会には、管内の林業事業体職員や現場作業班長など28名が参加しました。研修は、林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部の講師の協力を得て、労災事例の解説や伐木作業時の注意点に関する座学から始まり、その後、現地に移動して林内で伐倒作業の指導を受ける実践的な内容となりました。



▲室内研修の様子

現地研修では、伐倒時の受け口・追い口の作り方やチェーンソーのキックバックの危険性、指差し呼称の重要性など、基礎的な内容から専門的な内容まで詳しく解説がありました。参加者は、労災事故防止に必要な知識を深め、労働安全について改めて考える貴重な機会となりました。

今後も、林業労働災害の発生件数が1件でも減少するよう、引き続き労働安全巡回指導や関連情報の周知など、事故の未然防止に向けた取り組みを継続していきます。

（森林林業部）



▲伐倒作業の指導を受ける参加者

研修会でGAPチャレンジを応援！

令和6年12月12日、「GAP研修会～初めての審査・ステップアップ編～」を開催しました。

「初めての審査編」では、実際に審査員が農場を訪れ、チェックリストや必要書類を確認しながら質問形式で審査を進める様子を撮影した動画を活用し、審査の流れを学ぶ研修を行いました。GAP認証における初めての審査では、多くの方にとって不安が伴うため、実際の審査の様子を知ることによって、より具体的なイメージを持っていただきました。



▲グループワークの様子

「ステップアップ編」では、GAPにおいて重要なリスク管理について学びました。各農場における「食品安全」に関するリスクを洗い出し、その危険度や発生のしやすさを評価したうえで、対策についてグループで意見を交換しました。米農家からは「選別機に掛けてあるビニールが劣化し、異物混入のおそれがあるため、必ず取り外している」といった具体的な事例が紹介され、参加者同士の学びを深める機会となりました。

今後も、より実践的な研修会を開催し、皆さんのGAPチャレンジを全力で応援してまいります。
（農業振興普及部）

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました



▲プレゼント配布の様子

令和7年1月18日から2月16日まで、会津管内の宿泊施設（5施設）において、第5回「おいしいふくしまいただきます！」キャンペーンを実施しました。

対象の施設に宿泊し、県産農林水産物等に関するアンケートに回答いただいた方へ福島県オリジナルブランド米「福、笑い」300gをプレゼントしました。また、会津地域の特産品や6次化商品、会津地方の棚田などをPRするチラシを配布しました。

宿泊者からは、「おいしいものがたくさんあり、何度でも来たい場所です」「会津にはたくさんのお土産があり、お土産を買うのも一つの楽しみです」といった声が寄せられました。一方で、「馬刺し、こづゆ、ニシンなどさまざまな名物があるが、県外では知られていない気がする」といった意見もありました。

今後も、会津地方の農産物をはじめとした魅力について、広く情報発信を続けてまいります。

（企画部）



▲「福、笑い」をPRするチラシを配布しました

砂利採取監視員・物江浩二氏に知事感謝状を贈呈しました



▲感謝状贈呈の様子

令和7年1月23日、砂利採取監視員の永年勤続に対する知事感謝状の贈呈式を行いました。

感謝状を受領したのは、2014（平成26）年4月から10年以上にわたり砂利採取監視員として尽力された物江浩二氏です。式では、星所長より感謝状が贈呈され、長年の貢献に対する感謝の言葉を伝えました。

物江氏は、喜多方市や西会津町を中心に、砂利採取認可場所の監視や周辺パトロールを行い、砂利採取に伴う災害防止や砂利採取法の適正な執行に尽力されました。

今後も砂利採取監視員の皆様と協力しながら、地域の環境保全と県民の安全確保に向け、監視体制の強化に取り組んでまいります。

（農村整備部）



▲左から星所長、物江氏、石本農村整備部副部長

令和6年度会津地方指導農業士会総会・全体研修会が開催されました

令和7年1月27日、「令和6年度会津地方指導農業士会総会および全体研修会」が開催されました。

総会では、令和7年度の活動方針として、対面による研修会などを軸に指導農業士の活動を活性化させることが決定されました。



▲三浦吉則氏による講演中の様子

全体研修会では、JA福島農業技術センターの三浦吉則氏が「最近の高温傾向と地球温暖化～特に水稲（コメ）の品質、食味への影響と土作り対策を例として～」をテーマに講演を行われました。三浦氏からは、令和6年度の水稲の生育初期における高温と出穂前の日照不足が原因で徒長し、8月後半の降雨が倒伏を助長したことや、また微量要素（リン酸、腐植、ケイ酸、鉄、苦土加里）がコメの食味や収量に与える影響について説明がありました。さらに、ケイ酸が高温対策資材として有望である可能性についても話題としていました。

参加者からは、日頃の疑問に関する質問が飛び交い、充実した研修会となりました。

（農業振興普及部）

林業研究グループ及び林業普及指導員の研修会を開催しました

令和7年1月30日、林業研究センターにおいて「林業研究グループ等活動発表会」を開催し、会津管内から「里山のアトリエ坂本分校ばげ木こり部」が活動発表を行いました。

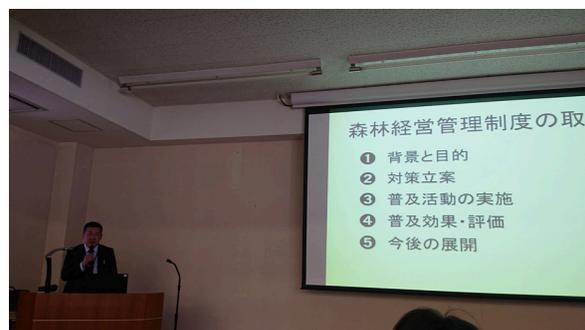
発表では、「雷神様に導かれて 里山整備と幸せ」と題し、会津坂下町の坂本分校から見える「めえ山（前山）」の整備状況について紹介しました。また、山頂における雷神様の再興や、手作りのターザンロープやブランコなどの山遊びを楽しみながら行われた自然観察会などの活動を通じて、里山整備における「幸せ」や森の「恵み」へ感謝を感じていることを伝えていました。

また、翌日には「林業普及指導員全体研修会」を開催し、当所から「会津管内における森林経営管理制度の取組について」と題し、管内で進行中の森林経営管理制度の進捗状況を報告しました。さらに、会津流域林業活性化センターと連携して実施した各種研修会や巡回指導等の普及活動の成果についても発表を行いました。

（森林林業部）



▲ばげ木こり部の発表



▲当所の発表

会津産「福、笑い」が食味コンテストで高く評価されました！



▲農林水産部長賞を受賞した^{てしろぎじゅん}手代木淳氏

「福、笑い食味コンテスト」において、JA会津よつば「福、笑い」研究会の手代木淳氏が、慣行栽培の部で農林水産部長賞（1位）を受賞し、2月6日の顕彰式で表彰されました。手代木氏は「北会津はうまい米が作れない土地だと思われており、若い後輩たちに『そういう米も作れる土地になった』と言いたい。今後も笑顔で『福、笑い』を作っていきたい。」と語っています。

また、山口陽康氏が所属する「磐梯町福、笑い研究会」の「福、笑い」が、「お米番付第11回大会」（株式会社八代目儀兵衛主催）で、全国182点の中から最終選考12点に入り、敢闘賞を受賞しました。「お米番付」は、日本料理店主や寿司職人などの食のプロが審査を行うもので、「福、笑い」の食味が高く評価される結果となりました。

次年度も良食味の「福、笑い」の生産を支援してまいります。

（農業振興普及部）



▲敢闘賞を受賞した^{はるやす}山口陽康氏・^{はるみ}春美氏ご夫妻

JA会津よつばの^{かんけ ひろあき}菅家博昭氏が農林水産大臣賞を受賞しました

節目となる第50回福島県花き品評会を、令和6年8月30日に郡山市のJA農産物直売所「愛情館」旧店舗で開催し、県内各地から出展された200点の中から金賞3点、銀賞10点、銅賞12点を選出しました。

会津管内から金賞の最高賞である農林水産大臣賞をJA会津よつばの菅家博昭氏（宿根カスミソウ‘銀河’、昭和村）が受賞しました。その他、銀賞4点、銅賞5点をJA会津よつばの生産者が受賞しました。



▶金賞農林水産大臣賞（菅家博昭氏 宿根かすみそう「銀河」）



◀表彰を受けた生産者ら

令和7年2月14日、県農業総合センター多目的ホールにて、表彰式を開催し、入賞者に各賞を授与しました。受賞された皆様、誠におめでとうございます。

これからもより良い品質の切り花が生産できるよう、関係機関・団体と連携して技術指導を行ってまいります。
（会津坂下農業普及所）

農林水産祭天皇杯受賞者の拝謁・業績ご覧

令和7年1月27日、天皇、皇后両陛下は皇居・宮殿で農林水産祭の天皇杯受賞者と面会されました。JA会津よつば昭和かすみ草部会の立川幸一部会長とJA会津よつばの原喜代志代表理事組合長が拝謁を賜りました。

天皇、皇后両陛下にこれまでの取組を説明し、激励のお言葉をいただきました。



▲ご覧になった業績報告の展示

昭和かすみ草



の販売額は今年度も過去最高を更新！

令和6年度のJA会津よつば昭和かすみ草部会全体の販売実績は、前年対比で本数・金額共に110%の増加を達成し、過去最高の販売金額7億2500万円を記録しました。

今後も関係機関や団体と連携し、産地のさらなる発展に努めてまいります。

（会津坂下農業普及所）

柳津町湯八木沢の水路トンネル補修工事が完了しました

柳津町湯八木沢地区において、老朽化が進んでいた水路の補修工事が12月に完了しました。

この水路は、東川から取水し、郷戸地区などの108.3haの農地へ用水を供給している全長8,130m（うちトンネルは3,500m）の農業用水路で、昭和18年（1943年）に竣工しました。しかし、竣工から80年以上が経過し、コンクリートのひび割れや摩耗など、経年劣化が進んでいました。

今回の工事は、湯八木沢地区にある沢を横断するトンネル構造の部分11mの補修工事です。このまま放置すれば、崩落などにより用水供給が途絶え、地域農業に深刻な影響を及ぼすことが懸念されたため、修繕と補強を実施することとなりました。

施工場所は山奥のため、車両の乗り入れができず、資材の運搬に時間を要しました。また、工事の施工期間が稲刈り後から積雪前までという制約もあり、難易度の高い工事となりましたが、施工業者をはじめ、柳津町役場や近隣住民の皆様のご協力を得て、無事工事を完了することができました。

今後も、安定した営農を支えるために、施設の維持・管理を継続して行っていきます。地域の皆様には引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

（農村整備部）



▲施工前



▲施工後

NPO法人会津自然塾が最優秀賞を受賞しました！

▶事例紹介する
鹿野義治理事長



「みんなでチャレンジ！環境保全型農業コンテスト2024」において、会津美里町の特定非営利活動法人 会津自然塾が最優秀賞を受賞しました。このコンテストは、環境にやさしい農業の取り組みとともに、地域社会の発展に貢献する農業者団体の活動を奨励するものです。

会津自然塾は、平成15年に設立され、有機農業をはじめとした環境保全型農業の実践や、有機農産物の宅配事業、6次化商品の開発を行っています。特に20年以上にわたる宅配事業では、有機農産物と共に「宅配便だより」を同梱し、生産者の紹介やほ場の様子を掲載するなど、購入者への情報提供にも力を入れています。

また、県内外の会員とともに交流イベントや講習会、マルシェの開催など、幅広い活動を通じて、消費者と生産者の相互理解を深めています。これらの取り組みが高く評価され、最優秀賞に輝きました。

今後、次の20年に向けて更なる飛躍を遂げることを応援しています。
(農業振興普及部)

▶最優秀賞を受賞した会津自然塾のみなさん



会津農林事務所からのお知らせ

福島県農林水産部
公式YouTubeチャンネル
「1400のネタばらし」配信中



最新動画



▶桃や身しらず柿、アスパラガスなど9種類の味を楽しめる！会津の素材を使用したショコラサンドをご紹介【企画部】



▶石高プロジェクトってなに？【第3弾】～地域農業の未来編～（前編）【企画部】

会津農林事務所SNS
あいつ”まるごと”ネットSNS
更新中

会津農林事務所では、InstagramとX（旧Twitter）において6次化商品の紹介、事務所の取組、イベントのお知らせなどを発信しています。ぜひご覧ください！



X（旧Twitter）



▲このアイコンが目印！



AIZU.NOURIN
Instagram



X（旧Twitter）



AIZUMARUGOTONET
Instagram



山菜を出荷する際は、御注意願います！



春が近づき、今年も山菜の時期がやってきます。県では、下記の山菜を対象として、放射性物質のモニタリング検査を実施しておりますので、山菜を出荷される方は、出荷前に採取地の市町村または森林林業部にお問合せください。なお、検査や生産者台帳の登録状況によっては、検査が省略できる場合もあります。

【モニタリング検査対象品目(野生山菜) 14品目】

くさそてつ(こごみ)、こしあぶら、さんしょう、ぜんまい、たけのこ、たらのめ、ねまがりたけわらび(栽培含む)、うど、うわばみそう、おおばぎぼうし(うるい)、ふき、ふきのとう、もみじがさ(しどけ)

【モニタリング検査の流れ】

- 1 出荷される方(採取者)は、採取地の市町村に検査を申し込み(検体を持ち込み)ます。
- 2 検体は、県の検査機関に持ち込まれ、検査が実施されます。
- 3 検査結果は、市町村から採取者にお伝えします。

山菜の出荷制限に御注意ください！

会津地域では、下記の山菜に出荷制限がかかっています。特に「こしあぶら」はほぼ全ての市町村で出荷制限中ですので、出荷されないよう御注意ください。

また、出荷制限等品目については、以下を遵守してください。

※山菜・きのこの出荷制限等の最新情報は、次のホームページで確認できます。
 ◇福島県内のは、福島県林業振興課のHP
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/>
 ◇福島県外のは、林野庁のHP
<https://www.rinya.maff.go.jp/lj/tokuyou/kinoko/syukkaseigen.html>



▲林業振興課HP



▲林野庁HP

山菜の出荷制限等品目について(会津地域) (令和7年2月現在)

品目	こしあぶら	たらのめ(野生)	ねまがりたけ(野生)	左記3つ以外の山菜
市町村名				
会津若松市	×	○	○	○
喜多方市	×	○	○	○
北塩原村	×	×	○	○
西会津町	×	○	○	○
磐梯町	×	○	○	○
猪苗代町	×	×	△	○
会津坂下町	×	○	○	○
湯川村	○	○	○	○
柳津町	×	○	○	○
三島町	×	○	○	○
金山町	×	○	○	○
昭和村	×	○	○	○
会津美里町	×	○	○	○

凡例
 ○ : 出荷制限がかかっていません。
 × : 出荷制限がかかっています。
 × : 野生のものは、出荷制限がかかっています。
 △ : 出荷自粛中ですが、町が定める出荷・検査方針に基づき、非破壊検査機による検査を受け、基準値を下回っていると確認されたものは出荷できます。

- 1 制限が解除されるまで出荷・販売はできません。
- 2 自主検査等で基準値以下でも出荷・販売はできません。
- 3 加工品の原料としても使用できません。
- 4 食堂や宿泊施設等で調理してお客様に提供することもできません。
- 5 フリマアプリ等のインターネットによる通信販売、無人販売所での販売もできません。
- 6 他人への無償譲渡もできません(出荷・販売に含まれます)。

特集

地域おこし協力隊インタビュー

猪苗代町の魅力を世界へ！

猪苗代町 地域おこし協力隊 戸倉千秋さん



福島県猪苗代町で地域おこし協力隊として活動する戸倉さんに、地域振興の取組や今後の展望についてお話を伺いました。

地域おこし協力隊って？

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年から3年です。

— はじめに、地域おこし協力隊となったきっかけを教えてください。

もともと茨城県出身なんですが、大学時代に会津のスキー場でアルバイトをしていたんです。会津は自然が豊かで、すごく居心地がよくて。社会人になってからも冬になるとこっちに来てたんですよ。それでいっそ移住しちゃおうと思って、自然と生活の利便性のバランスが良い猪苗代町に移住したのがきっかけです。

— 実際に住んでみて、猪苗代町のどのようなところに魅力を感じましたか？



▲イベントの猪苗代町のブースでは
多種多様な品種のお米が並びました

やっぱり自然が豊かで、温泉やスキー場、アクティビティが充実しているところですね。あとは野菜やお米がとても美味しい！特にお米は「ひとめぼれ」、「天のつぶ」、「里山のつぶ」、「ゆうだい21」、「つきあかり」など、いろんな品種が栽培されていて、食べ比べができるのも楽しいです。

品種の違いもありますけど、農家さんごとに精米の仕方が違うので、それだけでも味に変化が出ます。地域おこし協力隊の活動をしているうちにだんだんとそれが分かるようになってきました（笑）。

— 地域おこし協力隊としてどのような活動をしているんですか？

農産物の6次産業化とブランド化がメインのミッションです。猪苗代町の特産品を作っていくために、「いいな！いなわしろ」というブランド認定制度を立ち上げて、今は認定品の募集を進めているところです。

「いいな！いなわしろ」ブランドとは？

猪苗代町において生産された農林水産物及びこれらを主原料として加工した食品を猪苗代ブランドとして認定し、広く発信することにより、農産物等の振興及び地域の活性化を目的としたブランドです。

—— 「ブランド化」の具体的な内容について知りたいです！

例えば、“猪苗代町といえばこれ！”というような特産品を作りたいんです。福島県なら桃が有名ですよね。猪苗代町も米や蕎麦があるんですが、単に農産物として売るだけじゃなく、お土産品としての魅力を持たせたいと思っています。まだ具体的には決まっていませんが、米を使った焼き菓子とかもいいかもしれないですね。職場で配れるような箱入りのお土産品を作るのも面白そうだなって思っています。

—— 1日のスケジュールについて教えてください。

基本的には、午前中は役場で事務作業や打ち合わせ、午後は農家訪問が多いですね。

春から秋は田植えや稲刈りなどで農作業をお手伝いします。実際に農家さんと一緒に作業することで、農産物の魅力をより深く知ることができます。それがメインの活動である6次産業化にも活きています。

冬は、雪で農作業が出来ないので、イベント企画や販路拡大に力を入れています。あとは、ブランド化のための書類作成や、農家さんとの打ち合わせが多いです。



▲雪下キャベツの農家さんのお手伝い

—— 最後に今後の目標を教えてください！

猪苗代町の農産物を全国、そして世界へ広めたいですね。そのために6次化を進めて町のブランド化を確立したいです。”猪苗代といえばこれ！”と言える特産品を作りたいですね。

—— すごく楽しみです！これからの活動、応援しています。

いいな！いなわしろ
INA | INAWASHIRO
認定品募集

猪苗代町農産物活性化協議会

いなわしろならではいいな！いなわしろ

「いいな！いなわしろ」の認定品の募集が開始しました。申請の要件など詳しい内容は以下のHPからご確認ください！

(猪苗代町役場HP)
<https://www.town.inawashiro.fukushima.jp/cb/hpc/Article-27033.html>



▲猪苗代町の物産品をPRする戸倉さん

【ご意見・お問合せ】

福島県会津農林事務所 企画部地域農林企画課

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号（会津若松合同庁舎2階）

☎（0242）29-5369 FAX（0242）29-5389

